

希望の鐘

第193号

ひとつのつぼみはいちどしかひらかない

コロナに打ち勝て!魅せた聴かせた文化祭

10月16日(土)、17日(日)の2日間にかけて『Action~10000回ダメでも10001回は何か変わるかもしれない~』のテーマのもと、小中野中学校文化祭が行われました。今年度のテーマは、コロナの影響で様々な制限があるが、諦めずにやり続ければ必ず前進できる。一人一人が主体的に活動に取り組み、笑顔溢れる最高の文化祭にしよう、という願いが込められたものでした。また、密を避けるため、1日日程の文化祭を2日間日程に変更し、1日目は1、2年生と吹奏楽部中心に、2日目は3年生の発表を行うということにしました。こうすることで、1日目は1、2年生と吹奏楽部の保護者が、2日目は3年生の保護者が来場すると考えました。コロナ禍のもとであっても、子どもたちの活動の様子を直接保護者の皆様にお伝え出来たのではないかと思います。急な予定変更ではありましたが、ご理解いただければと思います。

16日のステージ発表では、1、2年生による虎舞、えんぶり、そして、吹奏楽部の演奏となりました。虎舞、えんぶりは地域の方々のご指導の下、2年生が1年生に伝える形式を今年も受け継ぎ、本校の伝統となっています。地域の方々が大変にしている伝統芸能を、中学生がしっかりと継承していく貴重な機会となっており、将来、これらを受け継いでいく生徒が一人でも多く輩出されることが期待されます。また、吹奏楽部の演奏では、部員16名がチームワークの良さをみせつけ、素晴らしいパフォーマンスで会場を盛り上げてくれました。笑点・大喜利のコーナーでは先生方が飛び入り参加、「こなかの」、「ぶんかさい」をお題に「あいうえお作文」に挑戦、爆笑を誘うなど、教職員と生徒が一体となって楽しめるステージとなりました。

17日は3年生全員による演劇『グッドバイ・マイ…』。3年生が役者チーム・ダンスチームの舞台班とセットや衣装を作る制作班に分かれ、全員が何らかの形で演劇に関わりました。全員の力を結集して、最後に最高のステージを創り上げようと頑張りました。出生後の運命に悩み、生まれるべきかどうか葛藤する様子を迫真の演技で演じていました。その後全員による合唱発表では「そよぐ風の中で」、「あなたへ」が披露されましたが、短い期間でよくここまでまとめることができたと感じさせる、心を一つにした、素晴らしいハーモニーを響かせてくれました。

展示部門では、国語の授業で書写した習字や美術の時間で描いた絵画、技術や家庭科の作品など、普段の授業で作成した作品の他に、入学式から今日までの半年間の軌跡を振り返る自分史や写真、モザイクアートを作った1年生、SDGsをテーマに「よりよい未来をつくるために大切なこと」を班ごとにまとめた2年生、修学旅行で学んだことをまとめたり、自分史を展示したりした3年生など、各学年工夫を凝らした作品が展示されていました。退職職員への感謝のメッセージや文化祭テーマにちなんだ、諦めずに頑張りたいことを掲示した生徒会展、カレンダー展示と新聞のルールについての間違い探しがある個人新聞を展示した報道部展も開かれ、まさに日頃の学習の成果が発表された文化祭となりました。





1 1 月行事予定	
1 日 (月)	未架講：小田切咲氏
2 日 (火)	中教研教科、全校朝会
5 日 (金)	親子進路説明会
8 日 (月)	生徒総会
9 日 (火)	いのち講演会
10 日 (水)	2 年企業見学会
11 日 (木)	未架講：向平利晃氏
13 日 (土)	バレエ霜月大会 (~ 14)
19 日 (金)	4 次考査 (5 教科)
22 日 (月)	未架講：高橋左京氏
26 日 (金)	4 次考査 (音保家)

